

2 協同労働の子育ちとは

講師：星平順子

協同労働の 子育てとは

子ども・子育てケアPJ

学習研修



子育て支援の大切な視点は

小泉内閣下、新自由主義の推し進め、市場原理の徹底
社会福祉基礎構造改革

弱者切り捨て、格差拡大

不安定雇用の拡大と長時間労働低所得層

経済的、精神的余裕のない中での子育て社会

「子育て困難」 「子育て困難」

子育て支援の大切な視点は

地域と家庭の子育て文化が衰退

コミュニティ崩壊は子育て文化の継承が困難

コマーシャリズム、育児情報の過多

子どもの発達優位より、大人にとって都合のいい商品

地域との結びつきが希薄の中、保護者は孤立

我が子とどう接していいかわからない

子育て文化の衰退と共に、子どもの遊びも貧弱に
(異年齢集団崩壊)

まとめ

地域における子育て文化の衰退、家庭の養育機能も低下
決して個人的責任に帰してはいけない

地域コミュニティの崩壊は経済政策の結果であり、保護者もまた、
これまでの歴史の中で社会的に形成されてきた存在である

社会の変容に伴い、「家庭が担う子育て」から「社会が担う子育て」へ

従来家庭にあった子育て機能を社会が担い、家庭の子育てを支援

子育ての社会化

協同労働の子育ちを考える

事業高が全体の45%、センター事業団を支える事業
2003年子育ち事業の民営化以降、首都圏中心に事業拡大
地域のニーズに沿った多彩な事業

最近では、虐待予防・社会的孤立防止
2010年子育ちの社会化を目指し、全国子育ちフォーラム

協同労働の子育ちのあゆみ

- 1980年 院内保育園の運営（日大ひまわり保育園）
- 1989年 「在宅保育園あざみ」
- 2001年 全国第1回子育て会議・・・参加者20名
- 2003年 地方自治法改正 指定管理者制度導入
- 2008年 「私たちの子育て事業12の合言葉」
- 2012年 「わが町の子どもたち運動」
- 2017年 「協同労働の子育ち指針」

労働者協同組合（ワーカーズコープ）

働く人は出資をして組合員となる。一口5万円の出資は

- ①一人一票の議決権を持ち、対等平等の関係
- ②経営に対する参加意識を高める
- ③必要な資金を出し合うことで自立した経営基盤をつくる

よい仕事と仕事おこし・話し合い

一人ひとりが民主的に経営に参加して、話し合いを深め生活と地域に必要な仕事をおこし、よい仕事へと高めていく。

一人ひとりの人間的成長と発達、持続可能な地域づくりを目指して共に働く

私たちが大切にしてきた価値

協同労働のよい仕事を通して人間的に成長・発達する

①先人たちの思いと伝統を引き継ぐ

「失業、貧乏をなくし、戦争に反対する」

②協同組合として大切にしている価値・・・人間観

人間の主体性への信頼、当事者性の尊重

協同の価値・・・違いを認め合う事

コミュニティをつくる・・・未来への責任

労働者協同組合法成立へ

第1条（目的）「この法律は、各人が生活との調和を保ちつつその意欲及び能力に応じて就労する機会が必ずしも十分に確保されていない現状を踏まえ、組合員が出資し、それぞれの意見を反映して組合の事業が行われ、及び組合員自らが事業に従事することを基本原理とする組織に関し、設立、管理その他必要な事項を定めること等により、多様な就労の機会を創出することを促進するとともに、当該組織を通じて地域における多様な需要に応じた事業が行われることを促進し、もって持続可能で活力ある地域社会の実現に資することを目的とすること」

子ども・子育てPJが目指すこと（指針）

「子どもたちは未来そのものです」

次の社会をつくるのは「子どもたち自身」

「子どもを真ん中においた社会・子どもが育つ地域づくり」

「子ども自身がどういう社会を望むのか」

「子育て」をサポート

「いのちが育つ地域づくり」の実践

最後に

協同労働のよい仕事を
話し合いによる民主的な運営を
全国組織の良さを活かす実践の共有と学びを
事業所内に留まらず、地域と共に（社会連帯活動を）
子ども食堂、小農、みんなのおうち・・・・
健康な体とところを

2 協同労働の子育ちとは を終わります。